

事例から見る DX の課題と失敗しない進め方

有限責任監査法人トーマツ Digital Governance マネージャー 酒井東悟

1. DX(デジタルトランスフォーメーション)が求められる背景

現在、人口構造の変化に伴う雇用問題やテクノロジーの進化に伴う顧客ニーズの急速な変化など、ビジネスを取り巻く環境が大きく変化しています。企業においては、これまでの既定のやり方から脱却し、環境変化に対応した新たな業務方法の構築や新しいビジネス創出など大きな変革が求められています。

DXとは「デジタル技術を活用し、顧客に付加価値を与えられる組織・文化を作り続けること」と要約することができます。DX 実現に向けては、新規ビジネスの創出だけでなく、既存業務の改革や人・組織の変革も必要です。全社的な活動となるDXを成功させるには、重要なポイントがあります。本講演では、成功に向けた3つのポイントを紹介いたします。

2. 失敗しない DX の進め方

DX を推進していく中で、取り組みがカオス化し、想定している成果が得られない・得られているかわからない状況に陥る**等**など、うまく進まない事がよくあります。DX を成功させるためには、大きく3つのポイントがあると考えます。

1) 共有された明確なビジョン

DX ビジョンと戦略を明確化し、経営層が積極的に関与することが重要

経営層が積極的に関与することで、部門の壁を乗り越え全社的な改善が実現できます。

2) 変革を推し進める組織

経営と業務部門の橋渡しが行える DX 推進組織が必要

DX 推進組織により、DX ビジョンが戦略化され、具体的な実施内容が明確になります。DX 組織はビジネスの形態により様々な形態があるので、型に縛られるのではなく、業態にあった組織形成を行うことが重要です。

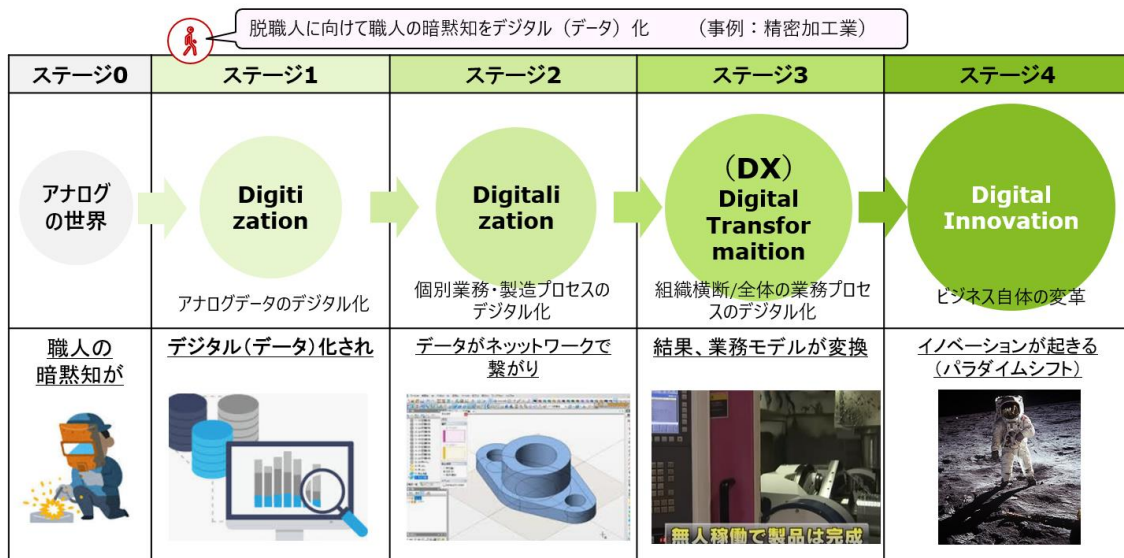
3) 高度な分析を可能とするデータプラットフォーム

業務改善を行いやすくするために、現在の業務状況を可視化するデータプラットフォームの活用が重要

現状の業務をデジタルデータで表現できる仕組みがあれば、どこを改善するべきかが迅速に判断できる共に、改善した効果を定量的に図ることができます。

データプラットフォームを有効活用することで、業務改善だけでなく、顧客ニーズに迅速に対応できる体制を構築することも可能となります。

DX を実現するには、上記の3つのポイントを押さえたうえで、デジタルの階段を一段一段上がっていく必要があります(図1)。「アナログデータのデジタル化」→「個別業務・製造プロセスのデジタル化」→「組織横断・全社の業務プロセスのデジタル化」というように、小さい取り組みから大きな取組へと展開することで着実に前進させていくことができます。



・ 紙によるアナログ業務のデジタル化や定型業務の自動化がDXの第一歩

図1 DX 実現に向けた階段

また、DX の実現には、様々な DX ソリューションの活用が必要となります。業務の自動化で活用する RPA(ロボティクス・プロセス・オートメーション)や必要なシステムを自前で構築することができるローコードツールなど、必要に応じて、適切な DX ソリューションを活用していくことで、全社的な業務のデジタル化・自動化が成熟していきます。

3. 最後に

ビジネスの環境変化が激しい昨今、様々な企業が生き残りをかけ DX に取り組んでおります。しかし、現場や経営層の理解が得られない、部門間の壁が厚く、思うように改善が進まないなど等の課題に直面している企業も多く存在しています。大きな変革が伴う DX の実現は、容易ではありません。そのような時こそ、組織全体が一丸となり、同じ目標に向かって、できることから一步一步ずつ、着実に進めていくことが重要となります。

DX 推進において参考にしていただけますと幸いです。

以上